海を照らす灯台のなかまたち

～由良岬灯台（ゆらのはなとうだい）～

四国南西部から豊後水道へ、ゾウの鼻のように細長く突き出た由良半島の先端部に、由良岬灯台があります。

この灯台は１９５０年（昭和２５年）に内海村（現在の愛南町）が「由良埼灯柱」の名称で設置し、１９５２年（昭和２７年）に海上保安庁へ移管されました。

戦後間もない頃に、地元の自治体が独自に灯台を建て、後に公設移管となった標識が多いのも宇和海の特徴です。

【由良岬と大猿島】

【灯台全景】

国に移管された後、１９６３年（昭和３８年）に現在の名称の「由良岬灯台」に変更されました。

【記念額】

この灯台の巡回・点検は、通常、海上から灯台下の海岸に設けられた船着場を利用して実施しますが、陸路で行くことも可能です。

駐車可能な場所から山へ入り、尾根に沿って歩くこと２時間強、片道約４キロメートルの道程となります。

【右側の斜面から登り、正面の尾根伝いに歩く】

【登山道】

由良権現神社の小さな祠までの道は、比較的分かりやすいです。

【右側の藪の後ろに祠がある】

ここから灯台までは、山の斜面を並行に進みますが、目印や踏み跡も少なく、所々崩れている箇所もあるので注意してください。

灯台の近くには、旧日本海軍の潜水艦探知施設（佐伯防備隊由良崎防備衛所）が今も残っています。

【迷彩色の兵舎】

【聴音所】

【聴音所内部】

【聴音所から灯台を望む】

太平洋戦争末期の１９４５年（昭和２０年）４月７日、史上最大の４６センチ砲を搭載した戦艦「大和」（第二艦隊のうち、第一航空戦隊の大和と第二水雷戦隊の軽巡洋艦１隻、駆逐艦８隻からなる第一遊撃部隊）が沖縄海上特攻への途上、鹿児島県の坊ノ岬沖にて米空母艦載機の攻撃を受け、大和を含む６隻が沈没しました。

「軍艦大和戦闘詳報」によると、この坊ノ岬沖海戦における大和の戦死者は２７４０名、生存者は２６９名で、生存者の一部は大和沈没を秘匿するために、人里離れた由良崎防備衛所に配属替されたとのことです。

○由良岬灯台要項

所在地	愛媛県南宇和郡愛南町（由良岬）
塗色・構造	白色、塔形（コンクリート造）
灯　質	単せん白光　毎５秒に１せん光
光達距離	7.5 海里（約 13.9 ㎞）
高　さ	地上から構造物の頂部まで　8.48m
	平均水面上から灯火まで　93.44m
	地上から灯火まで　8.39m